



施設内のリンゴ農園でリンゴを収穫するアップルハウス大釈迦の利用者たち（青森県青森市）

第2回デザイン支援活動の募集がスタート。 今年も積極的なソフト支援を展開していきます。

昨年度からスタートした日本セルフセンターの新事業「デザイン支援活動」。ソフト面からも会員施設の事業活動をサポートできないかと考えた活動でした。詳しい内容についてはホームページ「事務局 NEWS」にて随時報告して参りました通り、選考された4施設に対して、現地調査→現状分析→デザイン提案を実施していく本格的なデザイン支援活動になっています。

印刷費用面等の問題により、残念ながらすべての施設で提案内容が実現できたわけではありませんでしたが、施設のビジュアルイメージをすべて一新した「花の木苑（愛知県）」のような成功

例も生まれています。施設の利用者のイラストをカラージュした新しい「花の木苑」のデザインツール（見本参）は、今後ますます製品売上に向上させていくことが期待されています。

第2回デザイン支援活動の募集が、いよいよ9月から始まります。「花の木苑」のように施設全体のビジュアルイメージを新たに作り出したい施設を大募集中です。ぜひとも一緒に、新しい時代に対応した施設デ



ザインを作ってみませんか？ 詳しい応募要項は、会員施設にメールやFAXにて送らせていただきます。（ホームページの会員ページにも、要綱を掲載します）

特集：日本セルフセンター主導によるスポーツ文化事業

総体・国体などのビックイベントに 複数の施設が共同で生産・販売に参加する。 それが、スポーツ文化事業の醍醐味です。

2010年8月に沖縄で開催された「美ら島沖縄総体2010」。2003年の静岡国体から日本セルフセンターでは、国が開催するスポーツイベントにおいてセルフ製品を販売できる取り組みを進めてきました。

しかし今回の「美ら島沖縄総体2010」では、これまでの活動から一歩進んだ、新しい取り組みにチャレンジしています。今後の日本セルフセンターの活動の大きな柱として期待されているスポーツ文化事業の考え方について、ここで詳しく説明させていただきます。



「美ら島沖縄総体2010」公式製品として企画したセルフ GOODS

できる限り「施設の製品」を販売する。 それがスポーツ文化事業の基本的な考え方。

昨年度から日本セルフセンターでは、スポーツ文化事業のさらなる拡大を大きな活動テーマとしてきました。これまでの取り組みはどちらかというと開催県の地方組織が中心であり、日本セルフセンターが主体的に動いていたとは言い難い面があります。その結果、共同生産・共同販売活動に積極的に取り組む地域では大きな実績を残せるのですが、それ以外ではせっかくのビジネスチャンスを活かせず、やむなく公式グッズの多くを業者の製品で穴埋めせざるを得ないことになっていました。

この状況を変えるためには、日本セルフセンターが中心になり、開催県だけでなく全国の地方組織とタッグを組んでいく必要があります。企業と比較すれば決して生産能力が高いとは言えないセルフ製品も、全国の力を結集すれば高い生産能力を発揮することができるはずだからです。今回の「美ら島沖縄総体2010」における販売活動は、私たちのそんな理想的な考え方が初めて導入された第一歩となりました。

沖縄県を中心に、大分県&奈良県等の 複数セルフセンターの共同生産が実現。

今回、製造したセルフの公式商品は7種類。「チャレンジクッキー 20個入り・黒糖味」(沖縄県セルフセンター)、「チャレンジクッキー 12個入り・プレーン味」(チャレンジ! おおいた福祉共同事業協議会)、「チャレンジクッキー 30個入り・古代米クッキー」(奈良県セルフセンター)、「沖縄

総体・塩あめ」(C ネット福井/福井県)、「ハッピーガレット」(HIRAKU/神奈川県)、「海鮮煎餅」「かに煎餅」(南風荘/山口県)といったラインナップです。

製造施設は全国各地に散在していますが、すべてのアイテムの製造計画やパッケージデザインの管理をおこなったのは、日本セルフセンターです。これによって開催県の施設だけでは作れない製品群を公式アイテムに加えることに成功しました。それでも不足する分野については業者の製品を取り入れましたが、できる限り「施設の製品」を公式グッズに取り込もうという考え方が今回の取り組みの基本にあります。

一過性のお祭りから、継続的な共同事業へ。 まさにセルフセンターの役割が問われている。

スポーツ文化事業のこれまでの課題は、一過性のお祭りに終わってしまうことでした。複数施設が共同で製造・販売するという素晴らしい活動も、国体・総体といったイベントの時には実施できるのですが、その後が続きません。せっかくみんなで培った共同事業のノウハウも、活かさないまま自然消滅してしまっていたのです。

「美ら島沖縄総体2010」の公式グッズを手配する上で心がけたのは、「継続的に共同事業を行うことの重要性を知ってもらうこと」でもありました。そのため、過去にもっとも成功したと評価されているチャレンジ! おおいた福祉共同事業協議会や、昨年のおまほろば総体で共同事業を成功させたばかりの奈良県セルフセンターにも協力を要請。沖縄県内の施設だけではとても作りきれなかったため、チャレンジクッキーの2アイテム製造を担当してもらいました。

また、ユニバーサルベーキングカップ(パン・焼き菓子コンテスト)の運営にも参画している神奈川県の施設 HIRAKU にも参加してもらい、より高品質の製品を揃えることにも力を入れました。ユニバーサルベーキングカップといえば、製パン・製菓事業を行っている障害者施設で知らない人はいないほどのメジャーな大会であり、多くのパティシエたちが協力してくれています。そんなプロ集団が、HIRAKU の応援団として桜の葉を入れた新製品・ガレットを開発してくれたのです。民間とのコラボによるこうした製品開発は、良い製品作りのためには今後ますます必要になっていくことでしょう。

スポーツ文化事業を通じて、参加施設の 意識向上を図っていくのが最大の目的だ。

もちろん、課題はたくさんあります。製品レベルの安定化や検品体制の厳正化は共同生産ならではの重要なテーマですし、製品販売時における基本ノウハウの徹底も忘れてはならない問題です。せっかくみんなで共に作り上げた製品でも、販売スタッフのレベルがまちまちではユーザーへの印象が下がってしまいます。一般市場をターゲットとするこのような取り組みを経験する中で、参加施設の意識が向上してもらうことを願っています。

今回参加した沖縄県の施設の方々も、「みんなで一緒に製品を作ってみて、いろんなことがわかり勉強になりました」「ぜひともこのノウハウを活用して、他の仕事を受注できるようにになりたい」との声が上がっています。

今回のチャレンジをステップとして、今後ますます全国

のセルフセンター同士の連携が強まることを期待したいと思います。今年だけでも9月の国体(千葉県)、10月のねんりんピック(石川県)とイベントは続いています。今回の反省点を次に活かし、回数を重ねるに従ってさらに事業を拡大させ、より多くの施設が参加できるようなシステムを構築していきたいと考えています。是非とも日本セルフセンターの活動にご協力ください!!



NEWS!! 『至福のお届け』イベント開催のお知らせ

今年の10月29日、30日に行なわれるイベント『至福のお届け』(工賃倍増5か年計画支援事業好事例・展示即売会)のお知らせです。ナイスハートバザールと真心絶品も同時開催する官民連携の取り組みです。全国の優れものが満載です。来て、みて、感じてください。
会場：ベルサール秋葉原(東京都千代田区神田3-12-8)

COMING SOON!

第五回真心絶品認定委員会は、 10月6日（水）に開催です。 積極的にご参加ください。

日本財団との共同事業により「全国障害者施設のブランド化プロジェクト」の一環として運営されている真心絶品事業は、二年目を迎えて順調に製品アイテムを増やしつつあります。現在、93施設による110アイテムが真心絶品認定商品としてWEBサイトで販売・紹介されています。

今後も継続的に専門家による厳正な審査会が開催され、次々と良い製品が発掘されていくことでしょう。真心絶品に認定されるためには、1アイテムにつき10,000円の認定料が必要なのですが、日本セルフセンター会員に限りこの認定料が免除される特典があります。次回の認定委員会は10月6日（水）に開催されますので、会員の皆様はどんどん日本セルフセンターまで製品をお送りください。お待ちしております。

詳細の応募要項等は、日本セルフセンターホームページ「SELPインフォメーション」をご覧ください。



topics 表紙の写真

青森県青森市にあるアップルハウス大釈迦では、施設の近くにある広大な畑でリンゴを栽培し、新鮮なうちにジュースに加工する事業をおこなっています。保存料などの添加物を一切加えず、絞ったままの果汁100%ストレートジュースです。リンゴの里で利用者たちが一年かけてじっくりと栽培した自然の味は、多くの人たちから支持されています。昨年度はろうきんのポイントカード製品にも取りあげられ、一挙に売上を伸ばしました。

notice

告知板

木工作业部会のお知らせ

本年度の木工作业部会を、9月16日（木）～17日（金）に、旭川ターミナルホテルにて開催いたします。北海道の施設同士で実施している施設間ネットワークの取り組みや地元木工クラフトの専門家を迎えた講義など、盛りだくさんの内容です。木工作业を行っている施設の方はもちろん、今後木工作业を検討されている方も大歓迎。詳しくは日本セルフセンターホームページをご覧ください。

ウエス部会のお知らせ

本年度のウエス部会は、11月12日（金）～13日（土）に、島根県松江市において開催されます。詳しい内容については現在調整中ですが、島根県の共同受注システム等について、詳しくご報告していく予定です。内容が決定次第、日本セルフセンターのホームページで募集要項等を掲載していきますので、しばらくお待ちください。

第3回海水（塩）農業セミナー開催

来る11月22日（月）～23日（火）に、佐賀西部コロニーの主催による「第3回海水（塩）農業セミナー」が開催されます。佐賀西部コロニーが独自に開発したという海水農法は、いまや日本中の農業学舎や農業の専門誌・月刊現代農業も注目する最新技術になりつつあります。天然の海水を農作物に散布することによって天然のミネラル成分を取り込み、美味しくて栄養ある作物を育てるという「海水農法」について勉強できる唯一の機会です。作業科目に農作物を採用されている施設の皆さんも、是非参加してみたいかかでしょうか？「海水農法」については、日本セルフセンターホームページ・SELP訪問ルポの佐賀西部コロニー紹介記事で詳しく解説されています。



セルフセンター情報 第25号

平成21年8月31日発行 発行所 特定非営利活動法人 日本セルフセンター
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-13-1 大橋御苑駅ビル別館2F

発行人：会長 川俣 宗則 編集人：嶋田富士男

TEL：03-3355-8877 FAX：03-3355-7666

http://www.selpjapan.net/ E-mail：center@selpjapan.net